

まちあるきの注意点

※個人住宅や敷地には立ち入らないでください。

- は、石碑を表します。
- は、歴史の説明などが記されている標柱や説明板を表します。
- は、石柱を表します。
- は、保存樹や大きな木を表します。
- は、ワークショップに参加した学生さんのおすすめスポットです。

参考文献

- 秋田の今と昔
- 新秋田叢書(八)
- 秋田市の木と森
- 続・秋田市の木と森
- 秋田大百科事典
- 図説 久保田城下町の歴史
- 秋田市大辞典
- 三百藩家人名辞典 第一巻
- 秋田市の庚申信仰
- 佐竹家譜 上
- 秋田市旭川郷土史
- 秋田県神社名鑑
- 秋田市における地名の分類(下)
- 秋田・天徳寺史秋田のお寺 心のふる里
- 秋田市の史跡めぐり
- 秋田市の文化財
- 秋田市史 第六巻 考古資料編
- 秋田市外旭川郷土史 一語りつぐ外旭川のあゆみーふるさと秋田市
- 名勝旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯庭)庭園保存管理計画書
- 近代化遺産 国有林森林鉄道全データ(東北編)
- 旭川歴史散歩

文化財イラストマップ 秋田市泉(五庵山)・手形地区編

おきたのまち再発見 ぐるっと文化財マップ 見て楽しい、歩いて楽しい



0 50 100 200m
※200mを歩くには約2.5分かかります。

北
西 東
南

手形地区の歴史と地名の由来について
手形の「形」は、「湯」を意味していたと言われています。赤沼・長沼・谷地・深田などの字名が、旧旭川の自然堤防の辺りにみられることから、湿地が沼地から得た地名と考えられます。初代藩主佐竹義宣は、家老たちに命じて手形村に町割を実施し、侍町としました。

手形からみでんについて
町名は搦田村からきています。由来は搦田の方角が久保田城の搦手(裏手)に位置することからと言われています。

五庵山の歴史と地名の由来
五庵山は古くから信仰の聖域で、多くの(寺坊)が営まれたことから、「高野山」の地名が生まれたと言われています。また、熊野山・高野山信仰により、御取精進(修行)が盛んであったことから、三根根の地名も生まれました。

泉について
泉は「湧き水」のことで、五庵山と前面の平地とが交わる辺りから、湧き水が見られたと言われています。農村地帯が広がっていた泉地区は、上流からいかにで流されてくる木材や薪炭などを役人が検収する重要な関所でした。泉で検収を終えた木材は、旭川と雄物川の合流点にある川口の材木置場まで運ばれました。

保戸野八丁について
隣接する旧泉村の小字で、天徳寺街道の八丁から命名されました。天徳寺から八町(約872m)離れている、という意味です。

手形休下町について
休下町の北端旭川の岸に藩主のお休み処と、その下に御休橋がありました。御休下町の名は、この御休に由来しています。

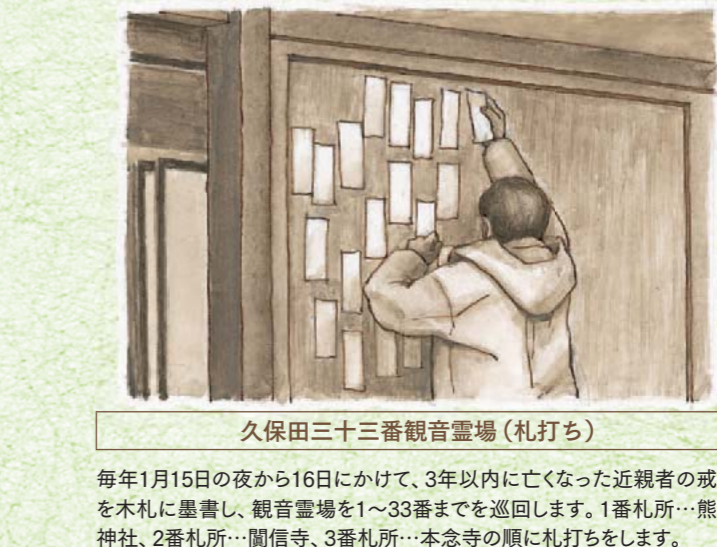
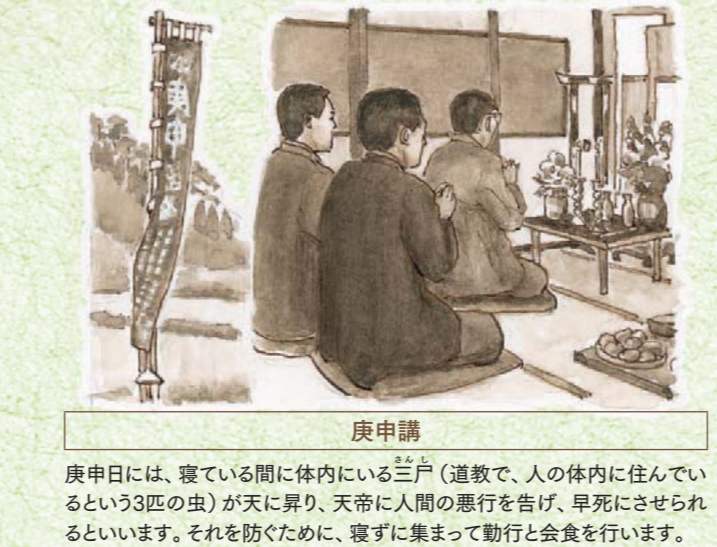
赤沼について
赤沼は、現在の秋田駅付近の長沼や手形(手湯)とともに沼沢地でしたが、江戸初期の正保元年(1644)から一帯は埋め立てられました。そして、沼が完全に姿を消したのは幕末の安政の頃でした。

このマップは、市民がまち歩きをして作成しました!



市民のみさんに地域の文化財・文化施設をもっと身近に感じてもらいたいと、文化財イラストマップを作成しました。マップ作成のためのワークショップでは、18人の市民のみさんが実際にまちを歩いて情報を集めました。このマップには、ワークショップ参加者が注目したのやコメントなどを盛り込んであります。このマップを持ってまちを歩き、地域の文化財・文化施設を楽しんでください。

- 秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館…… ☎018-889-2461
秋田市手形字大沢28-2
- 秋田市観光案内所(秋田駅構内) …… ☎018-832-7941
(財)秋田観光コンベンション協会 …… ☎018-824-8686
- 編集・発行:秋田市教育委員会 文化振興室
秋田市山王二丁目1番53号 山王21ビル4階
電話番号 018-866-2246 FAX番号 018-866-2252
- 協力:半田和彦(市文化財保護審議会副委員長)
岸 茂男(久保田城址歴史案内ボランティアの会)
学生団体ATMUI!
- 印刷:秋田活版印刷株式会社
イラスト:小西 由紀子
発行日:平成27年3月



江戸のおもかげあれこれ

